

1995年度 INTL WG 活動報告 (1995/04/01-1996/03/31)

intl-wg@nic.ad.jp

本WGは、94年度までAPNIC WGという名称であった。95年度に名称をINTL WG (International Liaison Working Group 国際連携作業部会)と改めた。これは活動の対象をAPNICに限定せず、JPNICと国際的な諸組織とのリエゾンの役割を果たすためである。

WGの構成: chair 後藤(滋)
vice-chair 平原
member 村井、小西、中村、岡
松方(学情センタ)、Conrad(IIJ)、Mansfield(AIC)
Gebes(PSI)、Okazaki(APNIC)
staff 中山、丸山

[1] 国際会議/委員会への参加

以下の国際会議に参加した。

- (1) INET'95 (June 27-30, 1995) Honolulu, Hawaii
- APNG (June 30 - July 1) 同上
- APNIC (July 1-2) 同上

この会議の様子は、第16回運営委員会(95年7月)に報告した。

- (2) APNIC meeting (January 20, 1996) Singapore
- APNG (January 21-24) 同上

この会議の様子は、第19回運営委員会(96年1月)に報告した。

- (3) ISOC-CIXの合同workshop (February 2, 1996) Washington DC

この会議の様子は、第20回運営委員会(96年3月)に報告した。

[2] ニュースレターおよび広報

- ・ 「2.3 APNIC報告」 JPNICニュースレター No.5(1996.3), pp.4-5.
- ・ 岡、後藤「JPNICレポート15 第1回APNIC Meeting参加報告」
UNIX magazine (アスキー), 1995.4. pp.138-140.
- ・ 後藤、岡、Okazaki 「アジア太平洋地域におけるインターネットの発展」
インターネットマガジン (インプレス), 1995.12 pp.308-310.
- ・ 岡「APNIC(Asia Pacific Network Information Center)」
インターネット白書'96 (インプレス), pp.60-61.
- ・ 講演: 平原、岡、McCollum 「ネットワークインフォメーションセンター(NIC)」
Networld+Interop95 Tokyo コンファレンスセッション, 1995.7.20.

[3] 次年度への課題

- (1) JPNICドキュメント(英文)の必要性

アジア太平洋地域の各国においてもNIC、あるいはproto-NICというべき活動が盛んになってきた。それを反映するようにJPNICへの各種の質問、英文ドキュメントの要望が高まっている。JPNICの経験を各国に活かしてもらえるように、従来にも増して英語による記述を充実する必要がある。

- (2) whoisの分散化

APNICでは、一旦rwhois(分散型データベース)を試行したが、その当時にソフトウェアの品質に問題があり、実用の域に達しなかった。しかし、APNICのデータベースを現行の集中型のwhoisのまま維持するのは次第に困難になると思われる。APNICとのトランザクションの頻度の多いJPNIC